

当院の精神科は、特に児童思春期の入院治療に力を入れています。また、外来では、児童思春期の診療に加え、成人期から老年期の方まで幅広い診療を行っております。

医長（部長代行） 菊地 秀明
 医長 中 康
 医長 前原 智之

入院 児童思春期専門病棟

東京都内でも数少ない児童思春期専門病棟（開放病棟）を有しています。病床数は 50 床で、対象は小学校高学年から 20 歳未満の方です。

児童思春期にみられる様々な症状の背景には、対人関係の悩み（特に友人関係や親子関係）が関係していることが少なくありません。仲間関係を上手く作れずに孤立し、自宅に引きこもって、家族に依存したり、暴力を振るったり、食事を摂る摂らないで親子喧嘩になったりします。入院することで、親と子どもの距離をいったん取ることができ、互いに親子関係や家族関係を冷静に見つめ直す良い機会になります。また、入院前は自宅で昼夜逆転などの生活に陥ってしまうことも多いですが、入院により、規則正しい生活のリズムを取り戻すことができます。

主治医による個人精神療法の中で相談したり、対人関係を重視した集団療法の中で、自分自身の課題や対人関係の傾向に気づき、解決していきます。そして、これまでは行動や症状でしか表現できなかった気持ちを、言葉にして表現できるようになったり、運動をする、絵を描く、音楽をするなど、より適切な形で発散できるようになります。自分の心の中にできた理想に向かって頑張れるようになっていきます。

また、子どもの治療と並行し、親御さんに対してもお子さんに対する接し方をアドバイスする親ガイダンスを行っております。

外来 外来部門では、児童思春期のご本人の相談や、そのご家族の相談だけではなく、成人期、老年期の方々の不眠症・うつ病・神経症など、幅広い精神科診療を行っております。

診療の対象となる方

●児童思春期の方

- ・登校できない状態が続いている。
- ・ひきこもり状態が続いている。家族に暴力を振るってしまう。物を壊してしまう。
- ・体の調子が悪い（吐き気、腹痛など）が、身体面の検査をしても、異常がない。
- ・学校で友達ができなかったり、友達グループに入れずに、孤立している。
- ・同世代の視線を不安に感じたり、怖く感じたりして、集団の中に入れない。
- ・周りから自分は変に思われているのではと、すごく不安に感じる。
- ・周りに過度に気を遣ってしまい、気疲れしてしまう。
- ・言いたいことが言えない。嫌なことを嫌と言えない。
- ・不安で乗り物に乗れない。狭い所に居られない。
- ・意欲がでない。集中ができない。成績が下がってきた。
- ・摂食障害（拒食、過食）
- ・強迫性障害（不潔恐怖、洗浄強迫、詮索癖、確認強迫、こだわりなど）

※なお、広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）やADHD（注意欠如多動性障害）、知的障害の方は、当院の精神科では治療をお引き受けすることができません。



●成人の方

不眠症、うつ病、神経症、パニック障害、適応障害、統合失調症などの診療を行っております。具体的には、次のような症状を扱っております。

- ・寝つきが悪い、夜中に何度も起きてしまう、朝早く起きてしまう。
- ・やる気がでない、集中力がない。
- ・体の調子が悪いが、身体面の検査をしても異常がない。
- ・気分が沈む、何でも悪いほうに考えてしまう、悲観的になりやすい。死にたくなってしまう。
- ・食欲がない、体重が減った。
- ・イライラして怒りっぽい
- ・わけのわからない不安・恐怖感・パニックにおそわれる
- ・不安で外出が怖く、乗り物に乗れない
- ・仕事に行く気力が出ない、仕事に行けない。
- ・人間関係がうまくいかないと感じる、職場にうまくなじめない。
- ・物音や周囲の出来事にひどく敏感になる

※広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）やADHD（注意欠如多動性障害）、知的障害、アルコール依存症、薬物依存症の方は、当院の精神科では治療をお引き受けすることができません。

※成人の方で入院が必要な方は、他の医療機関をご紹介します。